

特集

# 3度の名寄訪問で 「敗軍の将、石破氏」 「人間像」

# みえた—— 破茂氏の



▲「驚鳥不群」は石破氏の座右の銘だ(名寄北国博物館提供)

たので、ちょうど塗装作業をしていたキマロキ保存会のメンバーは驚いたようです。当時、私はたまたま不在で、メンバーから連絡を受け、急いで駆けつけました。そのときに撮った写真がこちらです。「石破さんがお見えになった」と聞き、私もびっくりはしましたが、この日に名寄へ来られることは知っていませんでした。2017年(8月31日)にも来館されているので、もしかしたらという予感がありました。午後の予定(名寄青年会議所主催の講演会)の前に空き時間があったので、寄ってみようかということになったのでしょね。D



▲機関車の運転席で笑顔みせる石破氏(名寄北国博物館提供)

ん)「いは、驚や鷹のようは強い鳥は群れないという意味らしいです。が、石破さんにふさわしい言葉という気がします。

51の運転席に座られ、ご満悦の表情でしたよ。メンバーとかなりマニアックな話もされておりました。15分くらいの滞在でしたが、リラックスして楽しまれていたと思います。とても穏やかで、物静かな方という印象でした。いまは責任のあ

る立場となられ、なかなか思い通りにはならないかと思いますが、あれだけ鉄道に理解がある方ですから、宗谷線問題がよい方向に進むことを期待しています。入口に飾ってあるのは、17年に揮毫していただいた色紙です。「驚鳥不群(しちようぶぐ



▲鈴木啓一氏

石破さんが当館にいられたのは、2021年6月26日の午前10時半頃でした。SL排雪列車「キマロキ」の見学が目的だったのですが、あれだけの方がアポなしでふらっと現れ

## 「突然のアポなし訪問に驚きましたが もしかしたらという予感がありました」

名寄市北国博物館 業務係係長 鈴木啓一氏

先の衆院選で歴史的な大敗を喫した自民党。新総裁に選ばれた直後にスピード解散を決定した石破茂氏の責任論が浮上しているが、裏金という旧弊に対する国民の不満が爆発したものであり、同情すべき点がないわけではない。その石破氏は、2017年から22年までの間、実に3度も名寄市を訪れている。石破氏ほどの大物が、特定の地域にこの頻度で訪問するのは異例といえるだろう。そこで関係者にみせた素顔は、選挙後の厳しい顔や渋い顔とは異なり、明るく人間味にあふれていたという。本稿の締め切り時点で特別国会における首班指名の結果は明らかになっていないが、その後、国のトップに立ったことは、名寄の人たちにとって大きな喜びだったに違いない。当時、間近で接した人たちの証言から、鉄道オタクとしても知られる石破氏の「人間像」を探ってみよう。(フリーライター・内海達志)



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)